

蘭字デザインコンテスト受賞作品

部門	賞	氏名	住所	年齢	職業	デザインの意図	講評
煎茶	金賞	笠 雄喜	福岡県久留米市	20代	学生	和風と洋風を組み合わせたイメージとして、絵柄を日本を彷彿とさせる富士山・桜・太陽を選びました。そして、書体を全て英文字することで西洋をイメージできるようにし配色はどこか懐かしさを感じさせる色合いにしてみました。	クラシックな蘭字デザイン構成において、地域性とお茶を表す絵柄と英文字が調和し、明るくインパクトがあった。文字のレタリングは遠くから見ても目を引く大きさやデザインで、バランスよく配置されている。色彩は、かつての蘭字に使われたイメージを持ちながらも新しいセンスを感じさせる。
	銀賞	大橋 進	神奈川県川崎市	60代	デザイナー	静岡の清水といえば「富士山」「三保の松原」「お茶畑」。宝永山のある「富士」は静岡のトレードマークです。JAPAN TEA = 静岡清水のお茶を表現しました。お茶の香りと、煎茶の香りがたまたまよってくるようです。	静岡らしさが「富士山」、「三保の松原」、「お茶の花」を用いたアイコンとして描かれ、地域性に明快さがあり、誰にも解りやすい作品であると評価が高かった。文字と図の左右のバランスもうまく配置されて上品である。
	銅賞	清水 庸介	東京都渋谷区	20代	会社員	清水といえば清水次郎長さんとも有名です。彼が清水の港を整備したことで世界へ清水のお茶が輸出されていきました。彼の後ろに「茶」の字を背景に次郎長さんを中心に富士山と茶の葉をイメージしたフレームで周りを囲いました。静岡清水の伊達男次郎長と一緒に世界へ出ていくお茶をイメージして作りました。	次郎長の顔の表情に面白さがあり、キャラクターもはっきりとしていて好評だった。蘭字のキャンバスに収まりきらない迫力で描かれていて、蘭字としてのメッセージ性は高かった。しかし、もう少し丁寧な三度笠や合羽の表現が望まれたこと、お茶をアピールする文字の理解しにくさが残念であった。
まちこ	金賞	島田 弥希子	島根県松江市			まちこ茶の特徴が伝わるラベルを目指しました。	何といってもまちこ像のうぶで可憐な表情、しぐさが良い。ほのかに桜の香りを印象づける温かいデザインやレタリングの工夫により、「まちこ」の伝えたい風味をよく表している。まちこという新しいお茶の為に、新しい蘭字のカチカチだと評価された。
	銀賞	大塚 徹	神奈川県茅ヶ崎市	60代	会社員	富士山に舞散る桜をイメージしたデザインにしました。	蘭字とは外国の文字という意味から、文字だけの蘭字も多く出品された。その中でもこの作品は、異なる英字書体の組み合わせにあっても全体のバランスがとれており、読みやすく感じた。また、全体的に静かな色のトーンの中に、力強い富士山を感じさせる印象深い蘭字であると評価された。
	銅賞	井上 理恵子	東京都府中市	30代	専業主婦	桜の香りと商品名「まちこ」から満開の桜の下の可憐なモダンガールをイメージし、描いてみました。	大正ロマンの雰囲気が残るノスタルジックな女性のデザインではあるが、現代的なセンスも感じさせる秀作であると評価された。「まちこ」というネーミングも明快で、ポスターなどに使用したらアピール度も高いのでは、と審査員からの人気も高かった。
紅茶	金賞	加藤 亜湖	新潟県阿賀野市	10代	学生	和の要素と紅茶の華やかさを取り入れました。和は日の丸、紅茶は花で独特の繊細な香味を表わしています。子供からお年寄りまで広く愛される紅茶にするため、親しみやすく可愛いデザインにしました。	和紅茶を印象づける、おしゃれで上品な色彩と文字デザインで構成され、高級感があり、美味しさを感じるデザインに仕上がっている。多くの人に愛される和やかな紅茶であってほしいところシンプルで雰囲気合致し、最後まで印象に残った作品だ。
	銀賞	金井 宗平	長野県長野市	30代		西欧的なイメージの強い紅茶に対して、日本産であるということ表現するために、ツタの模様による西欧的なイメージをふまえたうえで、白と赤の配色による日本的(日の丸)なイメージが重なったデザインを目指しました。	色調やデザインから、見る人に紅茶のイメージが湧き、シンメトリーな富士山も美形でよい。何か昔懐かしいレコート盤のジャケットのデザインをイメージさせ、全体として非常によくまとまっていて好印象であった。
	銅賞	岡 あつし	静岡市葵区	50代	公務員	かつて清水港からたくさんのお茶が輸出されていたことから、港の風景と紅茶の赤色をイメージし、夕暮れの清水港で輸出向けのお茶が積み込まれる風景を想像して図案化した。遠く富士を望むことで、静岡県であることをわかりやすく表現した。	清水港のガントリークレーンと船により、お茶の積み荷が輸出される様子がイメージされる図案は、他とは違った切り口であり、とても印象深く感じられる作品として評価された。清水港の地域性を強くイメージさせる作品で、物語性もあり好感を持たれた。